



達人の旅指南
第84回

フリーライター 加藤隆悦

花巻南温泉峡

岩手県
花巻市



湯の杜ホテル志戸平

人気温泉が多い花巻周辺

岩手県の花巻地方は、古くからの温泉集積地だ。主にJR花巻駅の西側の山あいには、大小の温泉宿が点在している。

大正期から昭和40年代までは、当時の国鉄花巻駅を起点にして2方向に私鉄の路線が延びて、主だった温泉を結んでいた。バスやマイカーが普及する以前のこととはいえ、いわば「温泉専用鉄道」が敷かれていたくらいだから、この界限の温泉のにぎ

わいが古くからのものであったことがわかる。

時代の移り変わりで温泉旅行が団体旅行から個人旅行主体に移行してくると、それまで施設の拡大路線を進めてきた温泉の中には苦戦を強いられるところも出てきたが、そんな中でも花巻の多くの温泉宿は比較的堅調だ。元々個人客に人気の温泉として定評があったからだ。

花巻南温泉峡の一角をなす「湯の杜ホテル志戸平」も、そんな花巻の人気温泉ホテルの一軒だ。

楽しみが尽きないホテル

創業は天保元年で現在まで180年あまりの歴史。当主は創業家直系で六代目。今では客室数約180室のスケールの非常に大きな温泉施設になっているが、温泉浴場や料理に趣向を凝らして個人客の人気を集め、いつも盛況だ。温泉はクセのない単純泉と塩化物

泉の計3つの自家源泉を持ち、それが大浴場と露天風呂合わせて7つほどの湯船に注がれている。この風呂の総面積は岩手県一の広さになるそう。すべてが男女別で（貸切風呂を除く）夜半に男女を入れ替えるので一泊すれば全部の風呂を制覇できる。温泉好きならぜひチャレンジしてみたいところだ。



千人風呂に付随する溪流露天風呂



天河の湯は幅25mの大きな湯船を持つ



渓谷を見下ろす日高見の湯の半露天風呂は和のテイスト

料理は予約時に和食会席をチョイスすることもできるが、なんとと言っても専用にあつらえられた会場でのバイキング料理が楽しい料理も彩り豊



温水プールは土・日・祝日に利用できる





ステーキや炭焼きなど、その場で作り立ての料理も味わえる



東北初という広い専用バイキング会場。メニューは選ぶのに迷うほど多種多彩

湯の杜ホテル志戸平

YUNOMORI HOTEL SHIDOTAIRA

〒025-0244 岩手県花巻市湯口字志戸平27-1

TEL.0198-25-2011 FAX.0198-25-2624

<http://www.shidotaira.co.jp/>

※各種宿泊プランがあります。詳細はホームページをご覧ください。電話でお問い合わせください。



2013年にワンランク上の和洋室タイプ「和(なごみ)」全18室が完成した

北道の花巻南ICか、秋田道の北上西ICが最寄りインターになる。電車を利用する場合は、東北新幹線の新花巻駅か、東北本線の花巻駅まで行くと、14時台から17時台まで1時間おきに予約不要の無料送迎バスがある。

志戸平は、宿に泊まって食べて温泉に入るといっただけではない、トータルな休日の過ごし方を提案してくれているようだ。ホームページもとても充実しているので事前によくチェックしておきたい。

(文・写真：かとうりゅうすけ 秋田市)
※写真提供(一部)湯の杜ホテル志戸平



温泉宿の若旦那と若手生産者の熱意で始まったはなまき朝ごはんプロジェクト

かで目移りしそうになるが、場が華やいているのでまるでパーティー会場にいるような気分にもなる。

普段から食べる楽しみのある志戸平のバイキングだが、2015年の秋は、「東北秋のうまいもん祭り」と題して、通常の定番メニューに加えて岩手牛のもも丸焼きやホタテの貝焼きなど、東北各地の郷土料理や名物料理がふんだんに食べられる特別企画が11月20日まで繰り広げられる。この秋の志戸平の大きな楽しみだ。

また、志戸平を含む花巻の3軒の温泉宿では「はなまき朝ごはんプロジェクト」を展開中。その土地の水でご飯を炊き、その土地で採れた食材で

秋田からもアクセス明快

湯の杜ホテル志戸平までは、マイカーで行く場合は出発地によって東

作ったおかずとともに食べてもらうという趣向で、泊まり客としては朝ごはんも楽しみだ。

一方、客室では2013年にリニューアルされたばかりの新感覚の客室「和(なごみ)」にも注目したい。モダンにアレンジされた和洋室タイプの部屋で、3名定員と4名定員の部屋合わせて18室。ワンランク上の温泉ホテルステイを堪能できる。こちらはカップルや結婚記念日などの夫婦の旅行におあつらえ向きだ。



宮沢賢治の作品にちなんだカラクリも楽しめる